

(19)日本国特許庁 (JP)

(12)公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-114645

(P2003-114645A)

(43)公開日 平成15年4月19日 (2003.4.18)

(21)出願人 特願2001-38839X/P2001-588339 (P2001-253537)

(22)出願日 平成13年12月3日 (2001.12.3)

(23)優先権主張番号 特願2001-253537 (P2001-253537)

(32)優先日 平成13年8月2日 (2001.8.2)

(33)優先権主張国 日本 (JP)

(51)Int.Cl' F1 G 9 G 3/30 6 11 J 6 21 P 6 23 R 6 41 D

(52)発明の内容

(1)発明の名称 単位回路の構造に使用されるデータ線の遮断

(2)技術分類

(3)背景技術

(4)発明と最接近する既存技術

(5)発明が解決する課題

(6)解決手段

(7)効果

(8)請求項

(9)図版

(10)特許登録の状況

(11)特許登録の状況

(12)特許登録の状況

(13)特許登録の状況

(14)特許登録の状況

(15)特許登録の状況

(16)特許登録の状況

(17)特許登録の状況

(18)特許登録の状況

(19)特許登録の状況

(20)特許登録の状況

(21)特許登録の状況

(22)特許登録の状況

(23)特許登録の状況

(24)特許登録の状況

(25)特許登録の状況

(26)特許登録の状況

(27)特許登録の状況

(28)特許登録の状況

(29)特許登録の状況

(30)特許登録の状況

(31)特許登録の状況

(32)特許登録の状況

(33)特許登録の状況

(34)特許登録の状況

(35)特許登録の状況

(36)特許登録の状況

(37)特許登録の状況

(38)特許登録の状況

(39)特許登録の状況

(40)特許登録の状況

(41)特許登録の状況

(42)特許登録の状況

(43)特許登録の状況

(44)特許登録の状況

(45)特許登録の状況

(46)特許登録の状況

(47)特許登録の状況

(48)特許登録の状況

(49)特許登録の状況

(50)特許登録の状況

(51)特許登録の状況

(52)特許登録の状況

(53)特許登録の状況

(54)特許登録の状況

(55)特許登録の状況

(56)特許登録の状況

(57)特許登録の状況

(58)特許登録の状況

(59)特許登録の状況

(60)特許登録の状況

(61)特許登録の状況

(62)特許登録の状況

(63)特許登録の状況

(64)特許登録の状況

(65)特許登録の状況

(66)特許登録の状況

(67)特許登録の状況

(68)特許登録の状況

(69)特許登録の状況

(70)特許登録の状況

(71)特許登録の状況

(72)特許登録の状況

(73)特許登録の状況

(74)特許登録の状況

(75)特許登録の状況

(76)特許登録の状況

(77)特許登録の状況

(78)特許登録の状況

(79)特許登録の状況

(80)特許登録の状況

(81)特許登録の状況

(82)特許登録の状況

(83)特許登録の状況

(84)特許登録の状況

(85)特許登録の状況

(86)特許登録の状況

(87)特許登録の状況

(88)特許登録の状況

(89)特許登録の状況

(90)特許登録の状況

(91)特許登録の状況

(92)特許登録の状況

(93)特許登録の状況

(94)特許登録の状況

(95)特許登録の状況

(96)特許登録の状況

(97)特許登録の状況

(98)特許登録の状況

(99)特許登録の状況

(100)特許登録の状況

(101)特許登録の状況

(102)特許登録の状況

(103)特許登録の状況

(104)特許登録の状況

(105)特許登録の状況

(106)特許登録の状況

(107)特許登録の状況

(108)特許登録の状況

(109)特許登録の状況

(110)特許登録の状況

(111)特許登録の状況

(112)特許登録の状況

(113)特許登録の状況

(114)特許登録の状況

(115)特許登録の状況

(116)特許登録の状況

(117)特許登録の状況

(118)特許登録の状況

(119)特許登録の状況

(120)特許登録の状況

(121)特許登録の状況

(122)特許登録の状況

(123)特許登録の状況

(124)特許登録の状況

(125)特許登録の状況

(126)特許登録の状況

(127)特許登録の状況

(128)特許登録の状況

(129)特許登録の状況

(130)特許登録の状況

(131)特許登録の状況

(132)特許登録の状況

(133)特許登録の状況

(134)特許登録の状況

(135)特許登録の状況

(136)特許登録の状況

(137)特許登録の状況

(138)特許登録の状況

(139)特許登録の状況

(140)特許登録の状況

(141)特許登録の状況

(142)特許登録の状況

(143)特許登録の状況

(144)特許登録の状況

(145)特許登録の状況

(146)特許登録の状況

(147)特許登録の状況

(148)特許登録の状況

(149)特許登録の状況

(150)特許登録の状況

(151)特許登録の状況

(152)特許登録の状況

(153)特許登録の状況

(154)特許登録の状況

(155)特許登録の状況

(156)特許登録の状況

(157)特許登録の状況

(158)特許登録の状況

(159)特許登録の状況

(160)特許登録の状況

(161)特許登録の状況

(162)特許登録の状況

(163)特許登録の状況

(164)特許登録の状況

(165)特許登録の状況

(166)特許登録の状況

(167)特許登録の状況

(168)特許登録の状況

(169)特許登録の状況

(170)特許登録の状況

(171)特許登録の状況

(172)特許登録の状況

(173)特許登録の状況

(174)特許登録の状況

(175)特許登録の状況

(176)特許登録の状況

(177)特許登録の状況

(178)特許登録の状況

(179)特許登録の状況

(180)特許登録の状況

(181)特許登録の状況

(182)特許登録の状況

(183)特許登録の状況

(184)特許登録の状況

(185)特許登録の状況

(186)特許登録の状況

(187)特許登録の状況

(188)特許登録の状況

(189)特許登録の状況

(190)特許登録の状況

(191)特許登録の状況

(192)特許登録の状況

(193)特許登録の状況

(194)特許登録の状況

(195)特許登録の状況

(196)特許登録の状況

(197)特許登録の状況

(198)特許登録の状況

(199)特許登録の状況

(200)特許登録の状況

(201)特許登録の状況

(202)特許登録の状況

(203)特許登録の状況

(204)特許登録の状況

(205)特許登録の状況

(206)特許登録の状況

(207)特許登録の状況

(208)特許登録の状況

(209)特許登録の状況

(210)特許登録の状況

(211)特許登録の状況

(212)特許登録の状況

(213)特許登録の状況

(214)特許登録の状況

(215)特許登録の状況

(216)特許登録の状況

(217)特許登録の状況

(218)特許登録の状況

(219)特許登録の状況

(220)特許登録の状況

(221)特許登録の状況

(222)特許登録の状況

(223)特許登録の状況

(224)特許登録の状況

(225)特許登録の状況

(226)特許登録の状況

(227)特許登録の状況

(228)特許登録の状況

(229)特許登録の状況

(230)特許登録の状況

(231)特許登録の状況

(232)特許登録の状況

(233)特許登録の状況

(234)特許登録の状況

(235)特許登録の状況

(236)特許登録の状況

(237)特許登録の状況

(238)特許登録の状況

(239)特許登録の状況

(240)特許登録の状況

(241)特許登録の状況

(242)特許登録の状況

(243)特許登録の状況

(244)特許登録の状況

(245)特許登録の状況

(246)特許登録の状況

(247)特許登録の状況

(248)特許登録の状況

(249)特許登録の状況

(250)特許登録の状況

(251)特許登録の状況

(252)特許登録の状況

(253)特許登録の状況

(254)特許登録の状況

(255)特許登録の状況

(256)特許登録の状況

(257)特許登録の状況

(258)特許登録の状況

(259)特許登録の状況

(260)特許登録の状況

(261)特許登録の状況

(262)特許登録の状況

(263)特許登録の状況

在《中華人民共和國憲法》第45條第1款規定：「國家尊重和保障人權。」

プログラミング範囲1 mにに対する範囲0.1 mに残している。

(0065) 以上の実験から理解でならないに、付加範囲4.3 mは、データ駆Xmの範囲または範囲を超過するための状況が想定として可能となる。され、本実験において、「始点または終点の範囲」とは、本実験の正しい範囲(本実験ではプログラミング範囲1 m)のみによるデータ駆の範囲または範囲よりも範囲で始点または終点を決めるように、細分化に精度を保証する操作を説明する。また、付加範囲範囲4.3 mは、データ駆の範囲に付加範囲の範囲に付加段、あるいは、データ駆の範囲を範囲に付加段セットするためのリセット手段として準備するに考えることも可能である。

(0066) 図8(c)に一例掲載でよううに、付加範囲1 mが無い場合には既に付加範囲は付加範囲に保たれおり、この所では、プログラミング範囲1 mの範囲1.4 mにおいても既存のプログラミング範囲1 mに付加する範囲範囲4.3 mを越えてない。従って、通常範囲2.1 mに正しいプログラミング範囲を割り当てる正しい範囲にプログラミングすることができない可能性がある。

(0067) このように、本実験においては、付加範囲1 mを用いてデータ駆の範囲または範囲を割り当てるうことにより、範囲範囲2.0 mに対して正しいプログラミングを行うことが可能である。また、プログラミング時間に制限して、目標日1-ホルダ2.0の運動範囲の高活性を保つことができる。

(0068) なほ、付加範囲1 mを用いたデータ駆の充電または動作の開始は、通常、範囲範囲マトリクスに含まれるすべてのデータ駆について同時に行われる。但し、範囲範囲マトリクスに含まれる範囲のデータ駆の1つの他のデータ駆に対して、付加範囲1 mを用いたデータ駆の範囲または範囲の加速度を範囲範囲に行なうようにしてよい。例えば、プログラミングの開始時ににおける目標日のデータ駆が範囲範囲4.0 (図8)が、所定のプログラミング範囲1 mに残する範囲範囲1 mに十分近接する場合には、付加範囲1 mを利用しないでよい。つまり、コントローラーが、データ駆に対して、(a)コントローラーでのプログラミング範囲と残す範囲の行でプログラムランプ範囲範囲とを切り出し、その差を所定の範囲範囲でであれば、(b)目標の行のプログラムランプ範囲に付加範囲1 mを割り当しないことと判断してもよい。また、これらのプログラミング範囲の点に応じて、付加範囲1 mの範囲を変化させてよい。換言すれば、プログラミング範囲1 mの範囲範囲と今回所との点に応じて付加範囲1 mの範囲範囲を決定する手段と、決まされた付加範囲1 mをデータ駆Xmに付加する手段とを組みるようにしてよい。この構成に

でき、駆動の活性化を図ることができる。

(0059) あるいは、外回のプログラミング電圧を!
mが設定の範囲よりも小さな場合のmが初期値1.0を
利用し、プログラミング電圧(m)が高めよりも大きい
場合には付加電圧1.0を利用しないこと判断しても良
い。この理由は、プログラミング電圧(m)が大きい場
合には、データ線Xmの初期または後期部分に早く行
われる所以で、初期値1.0を利用しなくても十分間に
所定のプログラミング電圧1.0を駆動できるからであ
る。

(0070) このあたりに、今回のプログラミング電圧
値(0.02)の範囲内が範囲のプログラミング電圧値(0.01
の範囲)よりも小さく、且つ、今回のプログラミング
電圧値1.0と付加電圧1.0との間(0.3の範囲)に
n、前回のプログラミング電圧値よりも大きいときの
み、付加電圧1.0を利用することしてよい。これら
の3つの状況は、これ以外の現象の初期に該するこ
とも可能である。例えば、第3の初期値を、第1の初期
値と第2の初期値との範囲内であるとしてもよい。
また、第1の初期値が第3の初期値への初期値の範囲
外の大さきのものとしてよい。

(0071) 付加電圧1.0を利用するか否かの判断は、
各データ線に行なうことが望ましい。且し、判断の行
い、さらに、第1の初期値と第3の初期値との範囲に
付加電圧1.0を利用することの場合は、次の
式で該当の初期値が範囲外となるという判断がある。

10.07.21 以下のように、本実験では、プログラミ
ング初期の初期値に対するプログラミング電圧1.0
を用いて行なうことがある。あるいは、プログラミ
ング制御を継続して、有機EL素子2.0の駆動時間の高
速化を図ることが可能である。特に、表示パネルの大き
さや駆動時間によって駆動時間の短縮される
ので、火薬素子や高分子導体素子等において上
述の結果が得られる。

[0073] B. 第2火薬部(付加電圧その2):图1
は、本実験の第2火薬部としての示す装置の構成図
を示す。図1は、データ線Xmのリード線である。このリード
線は、火薬部1.0と並んで、データ線Xmのリード線
1.0と火薬部1.0が並んでいる。且
て、リード線1.0は、火薬部1.0に並んでいる。

[0074] 図1は、両側面2.1・2.2の内側面を示す。左
手の回路板である。この回路板2.1は、両側面2.1・2.2の内側
面の片面に示す。右側面2.2は、両側面2.1と、4つのトランジ
stor 2.0が並んでいている。

[0075] 図1は、両側面2.1・2.2の内側面を示す。左
手の回路板である。この回路板2.1は、両側面2.1・2.2の内側
面の片面に示す。右側面2.2は、両側面2.1と、4つのトランジ
stor 2.0が並んでいている。

ている。他の構成は、第1火薬部と同じである。

10.08.01 図1-4は、第2火薬部における構成である。
子の初期の初期値Gと、データ線Xmの初期値1.0と、デ
ータ線Xmの初期値Q1との関係を示している。第2火薬部
4.1と、保持キャバシタ2.30と、第2のトランジスタ
2.42とがこの間に直列に接続されている。第2のト
ランジスタ2.42のドラインは、有機EL素子2.20に接
続されている。第1と第2のトランジスタ2.41、2.4
2のゲートには、第1のサブゲート線V1が並んで接続
されている。

[0076] 直列電流VDDと接続点との間に、第
3のトランジスタ2.43と、第4のトランジスタ2.44
と、保持キャバシタ2.40との並列接続が接続されてい
る。第3のトランジスタ2.43のドラインは、第4のトラン
ジスタ2.44のリースは、第1のトランジスタ2.41のド
ラインにも接続されている。保持キャバ
シタ2.40は、第4のトランジスタ2.44のノースピグ
ゲートには、第2のゲート線V2が接続している。ま
た、第4のトランジスタ2.44のゲートは、第20ト
ランジスタ2.44のソースに接続されている。保持キャバ
シタ2.40は、第4のトランジスタ2.44のノースピグ
ゲートとの間に接続されている。

[0077] 第1と第2のトランジスタ2.41、2.42
は、保持キャバシタ2.30と並列接続する間に
接続されるスイッチングトランジスタである。第3のト
ランジスタ2.43は、有機EL素子2.20の初期電圧を
おいてオン状態に保たれるスイッチングトランジスタで
ある。また、第4のトランジスタ2.44は、有機EL素
子2.20に接続する電圧値を調節するための自動トランジ
スタである。第4のトランジスタ2.44の初期電圧は、保
持キャバシタ2.30に保たれる初期電圧によって制御さ
れる。

[0078] 図1-2は、第2火薬部の構成図2.10a
の通常の動作を示すタイミングチャートである。この動作
では、图2に示した第1火薬部の動作から、ゲート信
号V1、V2の順序が反転している。また、第2火薬部
では、图2の初期動作から異常に走行するように、
データ線Xmの初期値1.0においても、付加電圧4.0を用
いて走行することができる。これは、第2火薬部
が第1火薬部と異なっている。すなはち、この付加電圧回路4
3.0bは、スイッチングトランジスタ2.43と駆動トラン
ジスタ4.4との初期電圧を切替えることで、これは付
加電圧4.0以上の場合に走行することが可能である。

10.08.31 C. 第3火薬部(付加電圧その3):图1
は、第3火薬部のリードライン(リード線)R4.10bを示
す回路図である。このリードライン(リード線)R4.10bを
用いて走行することができる。付加電圧回路4.3.0bの駆動が第1
火薬部と異なっている。すなはち、この付加電圧回路4
3.0bは、スイッチングトランジスタ2.43と駆動トラン
ジスタ4.4との初期電圧を切替えることで、これは付
加電圧4.0以上の場合に走行することが可能である。

[0079] D2: また、付加電圧回路を設けずに、デ
ータ線Xmの初期値1.0をプログラミング電圧1.0に接続
する方法である。この方法は、图2に示した第1火薬
部と同じである。付加電圧回路4.3.0bの駆動が第1
火薬部と異なっている。すなはち、この付加電圧回路4
3.0bは、スイッチングトランジスタ2.43と駆動トラン
ジスタ4.4との初期電圧を切替えることで、これは付
加電圧4.0以上の場合に走行することが可能である。

[0080] E: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0081] D2: また、付加電圧回路を設けずに、デ
ータ線Xmの初期値1.0をプログラミング電圧1.0に接続
する方法である。この方法は、图2に示した第1火薬
部と同じである。付加電圧回路4.3.0bの駆動が第1
火薬部と異なっている。すなはち、この付加電圧回路4
3.0bは、スイッチングトランジスタ2.43と駆動トラン
ジスタ4.4との初期電圧を切替えることで、これは付
加電圧4.0以上の場合に走行することが可能である。

[0082] F: 本実験の第4火薬部4.20によって走行する
ための初期値(图2に示した第1火薬部の初期値)を用いて走行する
ことができる。この初期値は、图2に示した第1火薬
部のデータ線Xmの初期値4.0は、图2に示した第1火薬
部と同じである。付加電圧回路4.3.0bの駆動が第1
火薬部と異なっている。すなはち、この付加電圧回路4
3.0bは、スイッチングトランジスタ2.43と駆動トラン
ジスタ4.4との初期電圧を切替えることで、これは付
加電圧4.0以上の場合に走行することが可能である。

[0083] G: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0084] H: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0085] I: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0086] J: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0087] K: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0088] L: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0089] M: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0090] N: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0091] O: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0092] P: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0093] Q: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

[0094] R: 本実験の第4火薬部としての示す装置の構成を示す
。本実験の第4火薬部4.20によってプログラミング電圧1.0
を用いて走行する際に、一般に、プログラミング初期値1.0
よりも大きな初期値をプログラミング初期値の初期に、
または、所定初期値の初期値に接続する代
りでよい。

端子に比べて、より早くデータ線を先端または後端で接
続する可能性がある。この操作からも理解できるように、付加
電圧を割り切る場合に、付加電圧回路を2段階以上に変化
させて、データ線V1の出力端子V1.0を3段階以上に
変化させるまでよい。

[0085] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを川
字型結合にて、第1火薬部と同様に、付加電圧回路1.0の
端子に付加電圧回路4.3.0bを接続する。付加電圧回路1.0の
端子に付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合
にて、川字型結合にて接続するプロトタイプ接続端子と、
内側の付加電圧回路4.3.0bを接続するプロトタイプ接
続端子にて接続する。

[0086] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0087] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0088] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0089] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0090] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0091] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0092] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0093] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0094] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0095] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0096] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0097] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0098] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0099] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0100] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0101] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0102] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0103] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0104] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0105] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

[0106] また、图1-1の付加電圧回路4.3.0bを接続する際には、川字型結合にて接続する
付加電圧回路4.3.0bの端子に接続する際には、川字型結合にて接
続する。

三

2003-114645

りと、スイッチングトランジスタ 11 との併用が試されている。この例では、スイッチングトランジ
スター 11 は他のチャネルに対しており、そのソースがスイッチングトランジ
スター 6X に接続されている。各スイッチングトランジ
スター 6X のゲートには、コントローラ 10 (图
2) からブリッヂチャネル回路 17 が電気的に入力され
ている。ブリッヂチャネル回路 17 が電気的に入力され
ている。

よりに示されているように、プロクランミングが複数の小分けほどデータ構造の複数回が多く、そのためEVも大きめ。この場合には、ブリーチー・スケジューラは、比較的小さなプログラムが複数ある場合に、比較的低い確率で、比較的高い確率で、複数のことの発生しない。

チャージUVを効率的に発生させるように設計を構成することが好ましい。具體的には、Rのデータ線とBのデータ線とGのデータ線とに別けてそれを逆送したりチャージUVを遮断するよう、3つのブリッジ回路に3つの遮断器が接続されている場合

函端回路のプログラミングが行なわれる範囲の初期の一歩を含む範囲に記述されてもよい(例20)。図20の出合点A)。ここで、「プログラミングが行なわれる範囲」とは、データ訂正V1がオンライン状態であり、データ転送と保持キャッシュ230とを接続するスイッチングトランジスタ(例20回路図の21-1、21-2)がオノン状態にあ

10-21-0の実験結果をVdd (14V)に適用される
値は、プリチャージ回路を採用してもよい。

Xmのデータ構造に囲まれているときには、削除した
ように示されているように、プログラミング知識が
小さくほどデータ構造の理解がQDQDも少なく、その相
対的小さいIEVも小さい。この場合には、プリチャージIEV
は、HARDWARE-CODE-LEVEL-

更可能な可能性の範囲を拡大することが望ましい。特に
体にブリーチングシリカを効率的に吸収できるようには
れば、ブリーチャージ操作をより効率よく行うことができる。

る制限を設けていた。最初は、ブリチャーリングでプログラミング機能が完了する前の段階のブリチャーリングにおいて実行することが出来ない。こうすれば、保証キャッシュ^{2.3.0}への圧縮の実現(結果の記録)が完了する前にブリチャーリングが行われるので、ブリチャーリング

て、ソログラミンに発する回路を遮断するための回路である。換算すれば、プリチャージ回路 6 01は、データ \times 3の増幅比を加算するための先放電回路部として構成する。また、プリチャージ回路 6 01は、データ \times 3の変比率の増幅比を加算する加算部である。データ \times 3の増幅比を加算する前にりセットするためのセッティングとして構成するとおもえるとともに可能である。

[0094] 例11は、第4次装置におけるプログラミング用T/Fの動作を示す説明である。この動作で

比熱較大の発光試薬に相当する比熱較小の試薬に該定することを望ましい。
1991年秋には、プリチャージ法¹⁾は、発光試薬の吸収波長で底質発光強度に相当する活性度にて、クエンチ法²⁾ができるように改良されることが好ましい。特に、ゼロではない必須吸光度の近傍の好ましい相当位置に、プリチャージ法¹⁾を適用するプリチャージ法²⁾を確立するが望ましい。ここで、「ゼロでない必须吸光度の近傍での好ましい」とは、例えば発光強度が0~2.5%の場合に、

例:「図2-1」では、ブリッヂマークティングに関する並行開発である。この例では、ブリッヂマークティング開発部門とデータ部門との間で、データ部門がオンラインとなる開発の初期段階から多くのフィードバックを得て進捗されている。この場合には、ブリッヂマークティングの後段において、開発キャバシタ23.0(44.)を実現または実現するための2つのスイッチテンプトランジスタ21.1, 21.2がオンラインとなるので、この段階キャバシタ23.0をデータ軸Xmと同時に

が原因となって床面キャラバン23の前輪側倒れの原因
の発生を防ぐことを実現することができる。
1.0.1.0.8) ブリヂャー・ジブ路面の駆動に付する変形
例: 固定した形状を示す。ブリヂャーの路面は0°、及
び路面の傾きの変形を示す。ブリヂャーの路面は0°、及
びマトリクス角2.0°以内に駆動のブリヂャー路面6
0°が実現されている。この結果は、図3に示すとおり
走行時の表示マトリクス角2.0°にブリヂャー路面6
0°を追加した構成である。図3の例では、データ報
グラフ400 cm間に複数のブリヂャー路面6 0°が

は、剛川 1.3～1.5におけるプログラミングの実行による結果が(左側)の通り、剛川 1.1～1.2においてプリチャージ削除により実現された結果(右側)となり、プリチャージ回数は 600 のみのチャージによって、データ転送量の電荷量 Q は、プリチャージ回数(図 1.8)に応じた既定の値に達する。操作手順は、データ転送量がプリチャージ回数に達しない場合は待機を繰り返す。その後、剛川 1.3～1.5でプログラムが実行されると、ソローラチャージ回数が 1 回の範囲で 1.4において、データ転送量が既定の値を超過する場合のプログラミングが実現され、これによりデータ転送量が既定の値を超過する場合のプログラミングが実現される。

距離測定器から1.0秒間の距離測定を実現している。こすれば、プログラミング範囲1mをこえていく場合に6.十分な精度でプログラミングを行なうことが可能である。

[0100] プリチャージを行うか否かの判断は、上述した位置検出用いた各種センサや形状検出部によって、今回の行に対するプログラミング範囲とに応じて判断されることも可能である。例えば、プログラミングの範囲内における各部のデータ範囲xmの初期値Rqd0(式1より)が、所望のプログラミング範囲1mにおいて

Xmの実行性がない場合に比べて保証料の倍のシナリオが適用される。従って、データ転送を実現するためには、Xmの実行性を考慮する必要がある。

(10-14) 亂れ、乱れのように、ソースのプログラムを開始する前にプリチャージを行なうようにすれば、プリチャージが開始時キャッシュ2.3の初期化領域に与える影響をより小さく抑えることができる可能性がある。

(10-15) なお、图2-20において、プリチャージ時間T_{PC}が終了するまでプログラム領域1mははじめに保たれている。この理由は、プリチャージ時間T_{PC}に伴う。

が示されている。図2-1の例で、表示マトリクス第200行に複数のプリチャージ回路600が設けられたものである。但し、図2-4の場合は、図2-10に示す那样な複数の表示マトリクス第200行にプリチャージ回路600を追加した構成である。図2-10の例では、データ線ドライバ600内に複数のプリチャージ回路600が設けられている。因に、图2-10の回路の動作は、上述した第4回路の動作とほぼ同じである。

[0109] 図2-2や图2-3のように、プリチャージ回路600が表示マトリクス第200行内に設けられている場合には、プリチャージ回路600を複数回読みと同样のTFTで駆動される。一方、图2-10や图2-5の例

(0.095) [图19 (d)] の一端部は、アリチャージを行った後で電極を剥離しない場合の電極部の変化を示している。この場合には、プログラミング剛性T₀/T₀'の算術平均においても、データ線の導通が既存のプログラミング剛性R₀/R₀'に比べてはるかに強度でない。従って、純粋剛性2.0に近いプログラミング剛性R₀/R₀'を用いて測定して新しい電極にプログラミングすることができるのである。

(0.096) 以上のように、本実験においては、アリチャージを行ってデータ線の導通または剥離を防げることにより、両端回路2.1-10において正しい差動信号を設けることが可能である。また、プログラミングの剛性を考慮して、有効E₁素子2.2の電極部の縮縫比を約0.097) なれば、データ線ドライバ4.0がデータ線の接続位置に沿って剥離されているときには、前述した

に、今回のプリチャージが実現しないで済む場合は、そのデータをX軸に沿って並んで記入する。この場合に「m」に並む場合は、そのデータをX軸に記入する。この場合に「m」に並む場合は、そのデータをX軸に記入する。この場合に「m」に並む場合は、そのデータをX軸に記入する。

小さい場合でのみプリチャージが実現しない。今回のプログラムでプリチャージが実現しない場合は、プリチャージを行わないこととする。この理由は、プリチャージが実現しない場合は、データがX軸またはY軸が十分に早く行われるので、プリチャージを行わなくても十分間にX軸のプログラムミングが実現できるからである。

(1010) なお、各データ軸毎にプリチャージを行う場合を除く場合は、選択的にプリチャージを行なうことができる。但し、既にすべてのデータ軸に対してプリチャージを行なうようにすれば、表示装置全体の制御が複雑になるという利点がある。

(1010) なお、カラーディスプレイ、RGBの3色分の映像出力を備えている。この場合には、各色毎にプリ

ログラミング機能 1mを減すと、この機能の一端がブリッヂ回路 60.0 にも適用されるので、重要な電力を消費してしまうからである。但し、これによる効率の低下が問題となる場合には、ブリッヂ回路にて 1.0mにプログラミング機能 1mを減すようとしてもよい。
[10106] [211] は、ブリッヂ回路の他の差額を示す規格である。この例では、ブリッヂ回路 60.0 が、1.0 のゲート信号 V_G がオトンとなった後に開始されている。この場合にも、段階キャッシュ 2.3.0 をデータ転送と同時にブリッヂすることが可能である。この例においても、ブリッヂ回路 60.0 が操作するまでプログラミング機能 1m に係ることが好ましい。
[10107] 以上の範囲から選択できるように、ブリッヂ回路は、園芸用回路のプログラミングが行われる範囲の間に合わせなくてよい。

ように、プリチャージ回路600が表示マトリクス部200の外に設けられる場合には、例えば、プリチャージ回路600を表示マトリクス部200を含む表示部オネ内にTFDにて構成することも可能であり、あるいは、表示マトリクス部200と並列MOSFET内にプリチャージ回路600を構成するよりも可視である。

10110) 図116は、プリチャージ回路600を構成した他の表示装置の例を示している。この図は表示部200と複数のプリチャージ回路600の(4)により、1つのプリチャージ回路600と、1つのプリチャージ回路600と、シフトレジスタ700と、が構成されている。

また、表示マトリクス部200の各データ線には、スピニングタップランジスター250が接続されている。スピニングタップランジスター250の一方の端子は各データ線Xmに接続されており、他の端子は第一ラインドライ

によって、記述されているデータが「0」か「1」かが判定される。

【013.1】一方の端子8.12は、その端子M.2の端子が固定された基盤側として利用され、他の端子8.11は、データ部材として利用される。情報の送受は、例えば、ビット線Xm (信号伝送回路) にてデータ部材dnを経し、これに応じて発生する送受部による端子8.11の端子M.1の向きを変えることによって行なわれる。また本情報の送り出しは、ビット線Xm (信号伝送回路) にて方向の電流を設し、このときのトランジスタ端子を電気的に操作することによって行なわれる。

【013.2】なお、図1.3において示すように、端子リズムは、このような端子R.A.M.にて記入した端子の一端であり、該R.A.M.の構成や情報の記録や読み出し方法については、既存ものが述べられている。

【013.3】本発明は、この端子R.A.M.のように、光束では黒い遮蔽部を用いた電子子細胞にも適用することができる。すなはち、本発明は、般に、電波測定器等で用いた電子子細胞に適用可能である。

〔技術的範囲の説明〕

【014.1】右側の、素子を用いた表示装置の一般的な構成を示すプロック図。

【014.2】本発明の表示装置としての表示装置の構成を示すプロック図。

【014.3】表示マトリクス部2.0とデータ線ドライバ4.0の内部構成を示すプロック図。

【014.4】第1回路群の構成回路2.1の内部構成を示す回路図。

【014.5】第1回路群の構成回路2.1の動作の動作を示すタイミングチャート。

【014.6】第1回路群の構成回路2.1の動作の動作を示すタイミングチャート。

【014.7】第1回路群の構成回路2.1の動作の動作を示すタイミングチャート。

【014.8】プログラム記憶回路D.0におけるデータ部材mの構成を示す回路図。

【014.9】右側の、素子を用いた表示装置の一般的な構成を示すプロック図。

【014.10】本発明の表示装置としての表示装置の構成を示すプロック図。

【014.11】第2回路群の構成回路2.1-aの通常動作を示す回路図。

【014.12】第2回路群の構成回路2.1-aの内部構成を示す回路図。

【014.13】第2回路群の構成回路2.1-aの通常動作を示す回路図。

【014.14】第2回路群の構成回路2.1-aの通常動作を示す回路図。

【014.15】第2回路群の構成回路2.1-aの通常動作を示す回路図。

【014.16】第2回路群の構成回路2.1-aの通常動作を示す回路図。

【014.17】第2回路群の構成回路2.1-aの通常動作を示す回路図。

【図1.5】第2実施例でのプログラミング期間Tpに付けるデータ線Xmと端子R.A.M.の変化を示す波形図。

【図1.6】本発明の3実施例の川ーラインドライバ1.0 bを示す回路図。

【図1.7】第3実施例の川ーラインドライバ4.30-aを利用した場合のプログラミング期間Tpの動作を示す波形図。

【図1.8】本発明の4実施例としての表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.9】第4実施例におけるプログラミング期間Tpの動作を示す波形図。

【図1.10】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.11】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.12】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.13】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.14】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.15】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.16】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.17】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.18】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.19】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.20】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.21】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.22】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.23】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.24】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.25】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.26】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.27】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.28】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.29】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.30】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.31】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.32】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.33】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.34】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

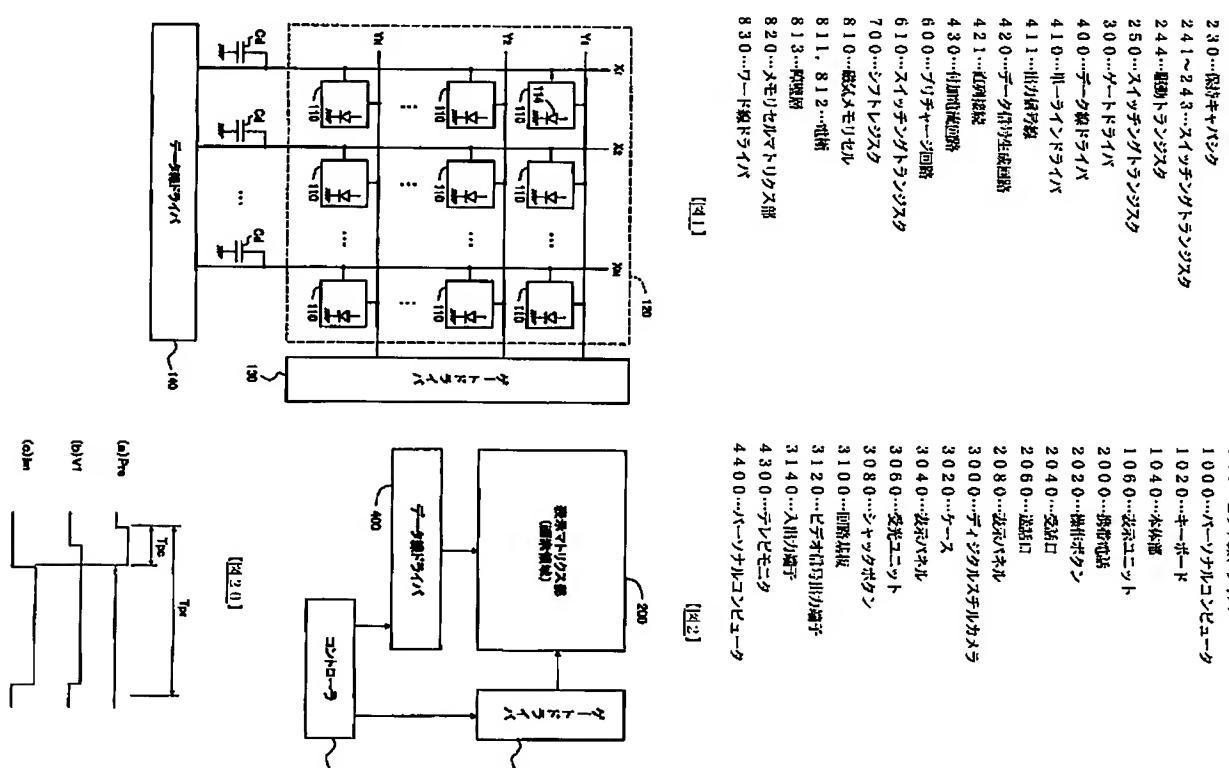
【図1.35】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.36】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.37】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

【図1.38】第4実施例における表示装置の構成を示すプロック図。

2.20…パラレル素子
2.30…回路キャッシュ
2.41…スイッチングトランジスタ
2.44…駆動トランジスタ
2.50…スイッチングトランジスタ
3.00…ゲートドライバ
4.00…データ線ドライバ
4.10…川ーラインドライバ
4.11…出力端子
4.20…データ線生成回路
4.21…直角接続
4.30…垂直接続
6.00…ブリッヂ回路
6.10…シップトランジスタ
7.00…シフトレジスタ
8.10…セルモジュール
8.11…電極
8.12…電極
8.13…電極
8.20…メモリセルマトリクス部
8.30…ワード線ドライバ
2.20…パラレル素子
2.30…回路キャッシュ
2.41…スイッチングトランジスタ
2.44…駆動トランジスタ
2.50…スイッチングトランジスタ
3.00…ゲートドライバ
4.00…データ線ドライバ
4.10…川ーラインドライバ
4.11…出力端子
4.20…データ線生成回路
4.21…直角接続
4.30…垂直接続
6.00…ブリッヂ回路
6.10…シップトランジスタ
7.00…シフトレジスタ
8.10…セルモジュール
8.11…電極
8.12…電極
8.13…電極
8.20…メモリセルマトリクス部
8.30…ワード線ドライバ
8.40…ビット線ドライバ
1.00…パーソナルコンピュータ
1.02…キーボード
1.04…水体
1.06…表示エニット
2.00…内部端子
2.02…端子ボタン
3.00…ケーブル
3.04…表示パネル
3.06…受光ユニット
3.08…シャッターバラン
3.10…回路基板
3.12…ビデオ処理回路
3.14…入出力端子
4.30…テレビモニタ
4.40…パーソナルコンピュータ

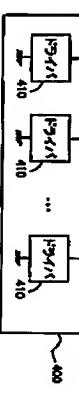
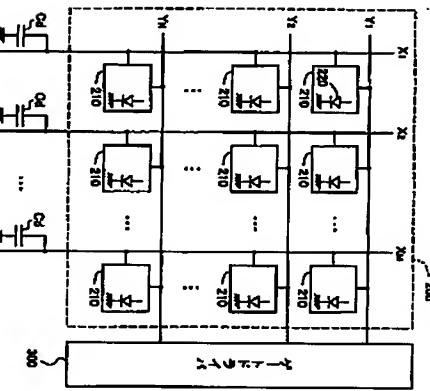


[図3]

[図4]

[図5]

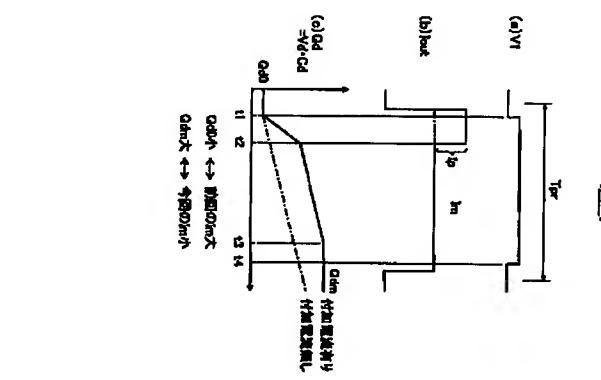
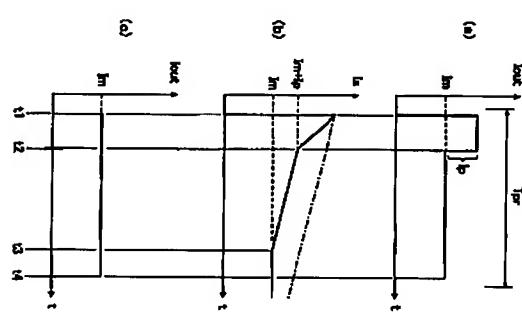
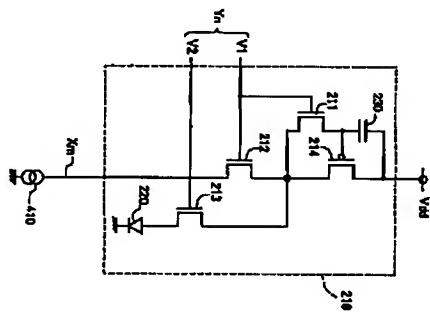
[図6]



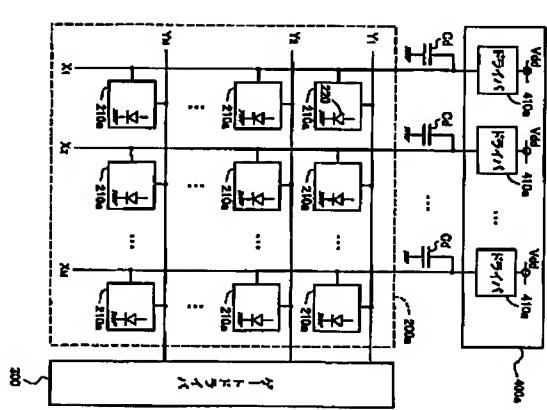
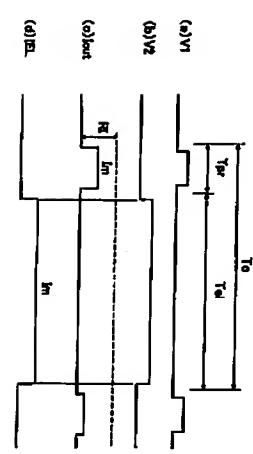
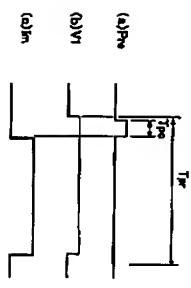
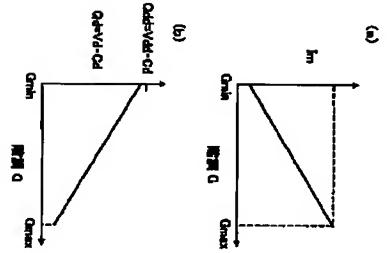
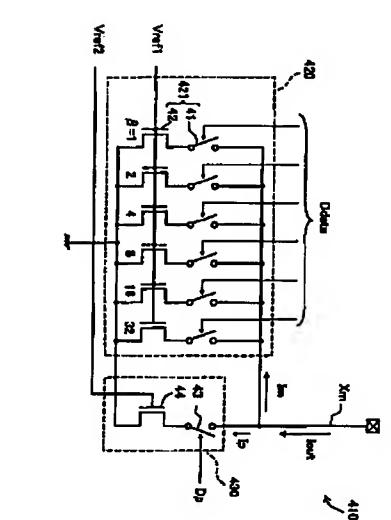
[図5]

[図6]

[図7]



[図10]

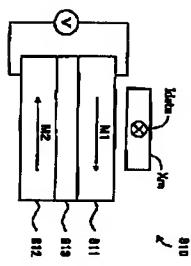


113

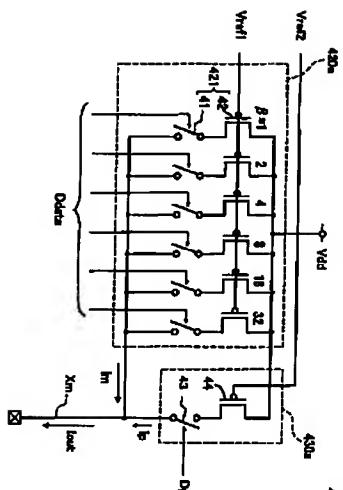
特用2003-114645

四

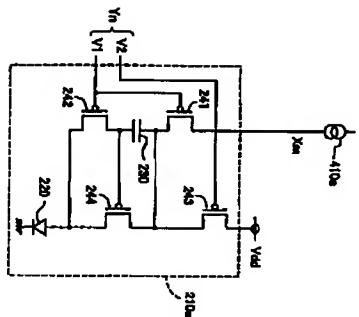
特閱2003-114845



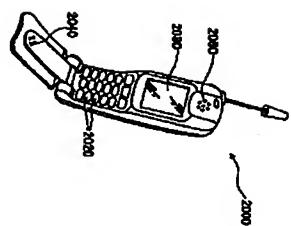
[xii]



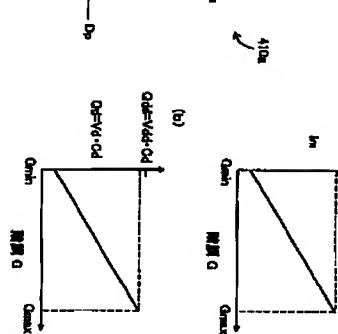
[33]



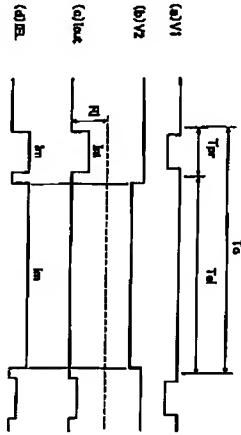
11



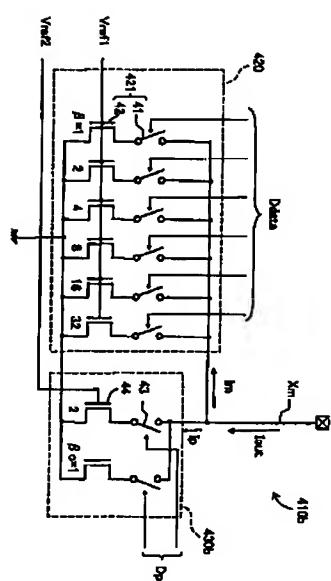
[四]



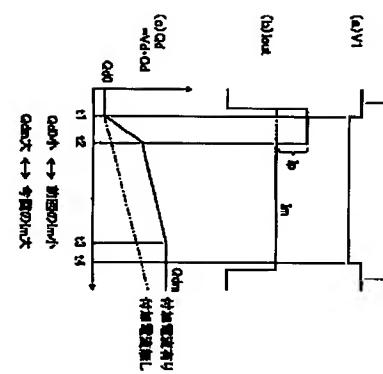
3



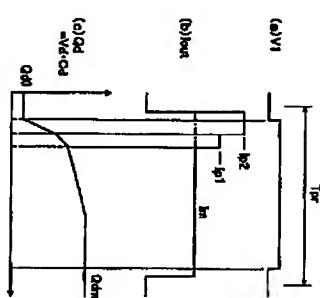
卷一



[xii]

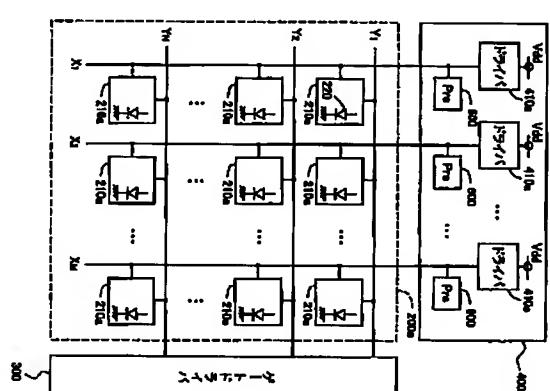
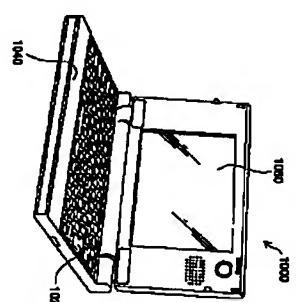
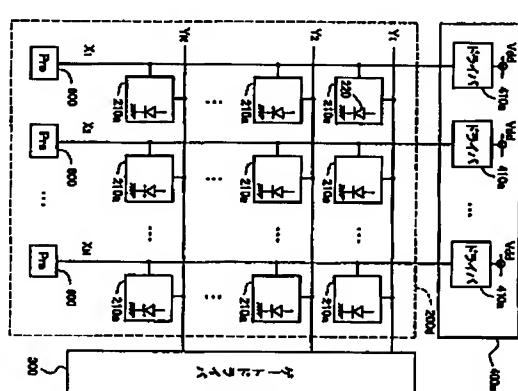
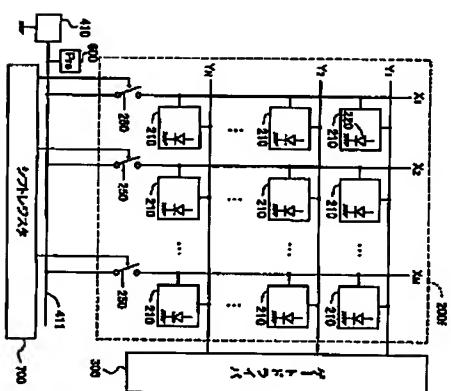
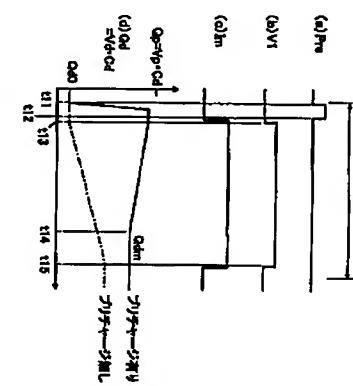
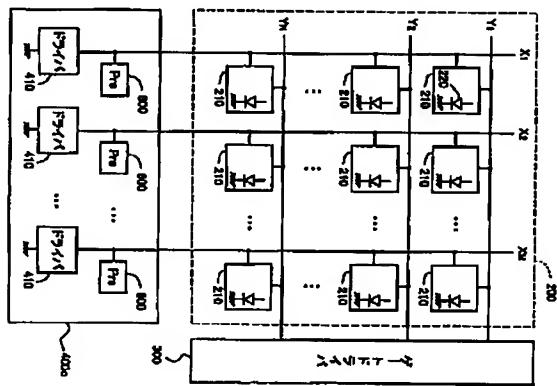
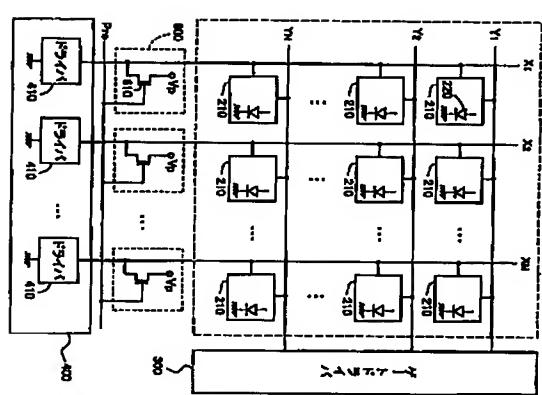
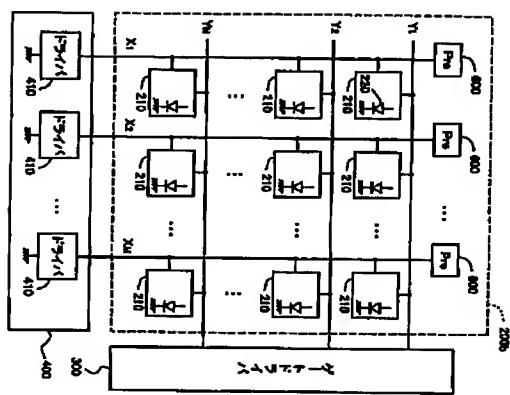


四



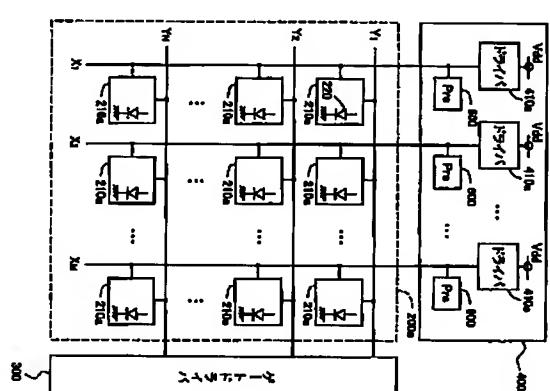
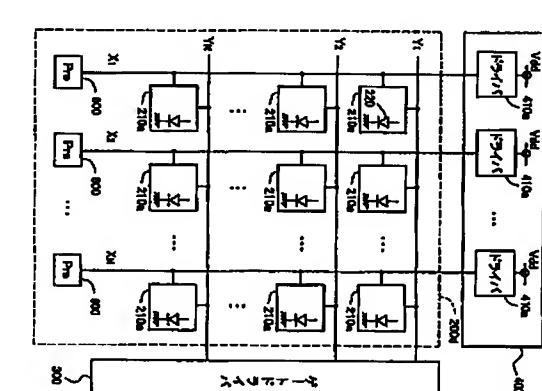
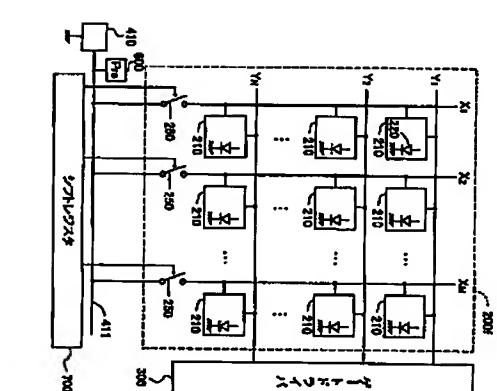
[図1.8]

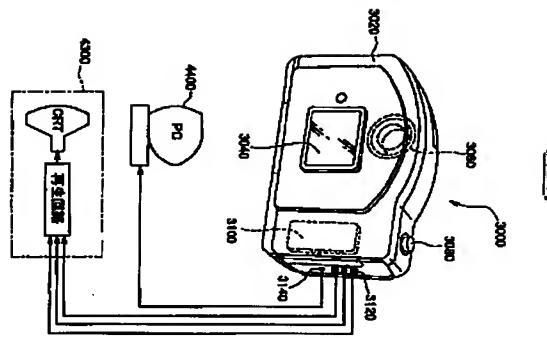
[図1.9]



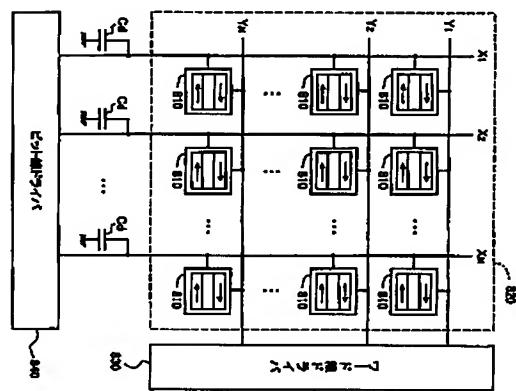
[図2.1]

[図2.2]





[67]



[xiii]

३५

特開2003-114645